

仁和伝法所報

Bulletin of Esoteric Buddhism Research Centre, Ninnaji Temple

令和5年8月31日

第3号

総本山仁和寺 仁和伝法所

-
- 1 法皇のお心にならって
 - 2 仁和伝法所の活動について
 - 3 研究活動報告
 - 3 所員による研究活動の概要
 - 6 研究助成事業 令和5年度 採択について
 - 7 講習会活動報告
 - 7 澄禅流悉曇講習会
 - 8 密教学講座 一真言密教の軌跡と仁和寺一
 - 8 声明の講座 一理趣三昧法会の声明一
 - 9 法式の講座 一西院流の荘嚴一
 - 9 悉曇の講座 一塔婆の書き方一
 - 10 講習会の予定
 - 11 組織(令和5年度)
 - 13 仁和伝法所刊行物



総本山仁和寺門跡 真言宗御室派管長 瀬川 大秀

皆様には平素より仁和伝法所の活動にご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

小衲、ご推挙により去る6月23日をもちまして再び仁和寺門跡・真言宗御室派管長を拝命いたしました。仁和寺開山・宇多法皇の本願に報い、本山隆昌、宗運発展に努めてまいる所存です。

さて本年は弘法大師御誕生1250年という記念すべき年にあたります。仁和寺においても、お大師さまの偉業を称えるべく各種の事業を進めているところです。

宇多法皇はお大師さまへの尊崇の念深く、仁和寺に住まわれて真言密教の修業に邁進されました。延喜21年(921)醍醐天皇による弘法大師号下賜の勅書には「況や太上法皇、既に其の道を味わい、追って其の人を憶う」との一節があり、法皇のお心を垣間見ることができます。一身の修善を通じて利他を願わんとする法皇にとって、弘法利人の至願を叶えるべく奔走されたお大師さまは、まさに鑑であり、よすがであったと思われまます。

末徒たる我々は今こそ、法皇のお心を深察し、またそれにならうべきではないか、そのように思わざるをえません。我々は曼荼羅の顕現、三密瑜伽のおこないにより衆生を救おうとしたお大師さまの教えを受け継いでいます。宗教の社会的意義が問い直されつつある

なか、それでもお大師さまが拓かれた真言密教の道を示し続けることが責務であります。

仁和伝法所は仁和寺設置の組織であり、法流・教義・宗史をはじめ真言密教に関する研究・教育活動を日々進めています。その取り組みは所員が直接担うものにとどまりません。近年では若手研究助成の交付を通じ、微力ではありますが有用な学術研究を間接的に支えています。また例年の講習会は御室派以外の他派や一般の方にも多く受講いただいております、好評を博しています。

このように仁和伝法所の取り組みは決して内向きで硬直したものではなく、広く社会や時代に目を向けてアプローチし、そのなかで独自の役割を果たそうとしています。現在の真言末徒ひとりひとりに求められるべき立場や働きにも、それと似たところがあるのではないのでしょうか。むろん、真言密教の教えそれ自体が、一切衆生の共存と安楽という崇高な目的のため、宗団・寺院の枠にとどまらない広がりを持つべきものであります。

本報をご覧いただく宗団関係寺院をはじめとする皆様には、どうか引き続きお力添えを賜りますよう、またご意見ご要望をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

皆様の益々のご隆盛をお祈り申し上げ、挨拶といたします。

合掌

仁和伝法所の活動について



仁和伝法所所長 仁和密教学院学院長 鈴木 義晃

この度、所報第3号を発刊するにあたり、関係各位の皆様方には、平素より仁和伝法所の活動にご高配を賜っておりますこと、深くお礼申し上げます。

本年度も弊所は①講習会活動、②研究事業、③出版事業を主軸に活動を進めております。

①講習会活動につきましては、本年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更されたというものの、この原稿を書いている時点（6月末）では、“第9波”の感染拡大が始まっている可能性があるとの報道がなされる状態であり、大規模な伝授や講習会を開催するのはまだ難しいと判断せざるをえません。

そのような中でも、令和3年より全10回にわたり実施している「澄禅流悉曇講習会」が本年9月に全日程を終了することから、同講習会の受講者を対象とする「悉曇灌頂」開筵の準備を進めております。また「悉曇の講座」、「法式の講座」を、それぞれ全3回、「密教学講座」を全4回にて開講する予定です。

②研究事業としては、武内孝善主任研究員をはじめとする先生方を担当とする所内の研究活動に加え、研究助成の交付を通じて有用な学術研究を支える活動をおこなっています。また『南山進流声明集』シリーズの編集と「西

院流口訣の調査研究」をおこなうべく、月に数度のペースで所内研究会を開催しております。これらの成果は近い将来公開させていただく予定です。

③出版事業としては、『南山進流声明集一大般若篇一』の発刊を予定するとともに、弊所における研究成果および仁和寺・真言密教関係の研究成果の公開を目的として、研究紀要の発刊をいたしたく、準備会議をおこなっております。

「医王の目には、途に触れて皆、薬なり。

げほう 解宝の人は、こうしゃく 鋤石を宝と見る。」

（『般若心経秘鍵』）

お大師さまは、「最高の医者の目には、使用法によって全てが薬となり、宝石を見分けることのできる人は、天然の石の中から宝石を見つけることができる。」と説いておられます。自分が触れている。出会っている。見聞きしている。そういったあらゆるものにすばらしい価値があり、学びや自分を成長させる糧となるのです。このことに気づき、そこから何を学び、掴もうとするのか…。

一人でも多くの方が伝法所の活動に関心を持っていただき、その活動に携わっていただけることを切に願っております。

所員による研究成果の概要

寛平法皇の伝記的研究 — 宇多天皇時代を中心として —

主任研究員 武内 孝善

本研究は、仁和寺のご開山であられる寛平法皇の65年にわたるご生涯を、信頼できる史・資料にもとづいて詳細に跡づける伝記研究を目指すものである。できる限り一次史料、つまり法皇が活躍された同時代の史・資料、なかでも法皇ご自身がお書きになられた著述・文章を収集して、法皇のご生涯を跡づけたいと考える。

令和4年4月に提出した計画書では、2ヶ年をかけて、法皇のご生涯全般にわたる史・資料の蒐集と整理・解説をおこなう予定であり、令和4年度は前年度に引き続き、ご誕生から若き日の仏道修行、そして後世「寛平の治」と称された天皇自身のお考えにもとづいた斬新な親政の実際、すなわちご在位中に出された太政官符類94通の解説を中心に進めたいと考えていた。

本年度に実施した研究の一つは、宇多天皇時代に発給された太政官符94通に対して読み下し文と現代語訳を作成し、内容の把握をおこなったことである。当初の計画では、宇多天皇時代に出された太政官符類94通のすべてを現代語訳することであったが、専門用語の理解に難渋し、寛平4年(892)までの23通を現代語訳したに過ぎない結果となった。とはいえ、前年度におこなった仏教関連の太政官符12通を

加えると、半数近くの官符の内容把握を終えることができた。

今一つは、宇多天皇時代に発給された太政官符94通を通覧した結果、一つの特色と考えられる事象がみえてきたことである。それは、逼迫していた財源を確保するための施策と考えられる太政官符が、94通のうち、三分の一強の37通にみられたことであり、その特色を検討した。これら財源確保の施策は、大きく三つに分かれる。すなわち、第一は、役所の統廃合などによる人員の削減措置であった。第二は、京庫から支給されていた激務に対する手当(要劇料)や宿直料(番上料)を、天皇をはじめ上皇・皇后・皇子などの飲食物にあてる官田をもって支給するよう変更したことであった。第三は、未進の調庸・雑物などの租税徴収を確実にこなうための施策に関するものであった。37通の内訳は、第一が8通、第二が6通、第三が23通である。特に、第三の未進の調庸・雑物などの租税徴収を確実にこなうための施策に関する太政官符は、前例をあげ細部にわたって複雑であり、その全容の把握は一筋縄ではいかない。次年度には、これら37通から見えてきた特色を整理して報告したい。

(武内 孝善)

仁和寺に関する史料の編年と古代学協会調査資料のデジタル化 —延喜 11～20年の史料収集と御経蔵調査写真のデジタル化—

研究員 古藤 真平

10世紀前葉の仁和寺史に関する記事の集成と、平成時代に古代学協会が調査の機会を頂いて得た仁和寺所蔵文献に関する資料の再活用を二つの柱として、研究に取り組んだ。

前者については、古代学協会が平成11～17年に編集・発行した『仁和寺研究』（吉川弘文館発売）の第4・5輯（平成16・17年）に掲載した「仁和寺編年史料（一）・（二）」（光孝朝仁和年間～昌泰3年）の続編を期するものである。令和4年度においては、延喜11～20年（911～920）の史料収集を行った。5年度は延喜21～承平元年（921～931）の史料収集を行う計画である。仁和寺で建造・供養された堂宇、挙行された法会、そしてその中心で活躍された宇多法皇の御事績について、多くの方々が学者と同じ目線で年月日順に記事に触れて頂けるような史料集を目標とし、仁和伝法所が計画を進めている研究紀要に掲載して頂けるように原稿作成を進めて参りたい。

後者については、古代学協会が平成6～17

年度に調査・撮影の機会を頂いた黒塗手箱12箱分・御経蔵18箱分・塔中蔵8箱分・書籍24箱分のモノクロフィルム約550本のデジタル化を順次進め、将来の活用に資することを目指すものである。令和3年度は107本のフィルムをデジタル化し、古代学協会側の予算で実施した64本と合わせて171本に達し、黒塗手箱分を完了していた。4年度は162本のフィルムの画像をデジタルデータ化した。古代学協会側の予算で実施した46本と合わせると208本となる。令和3・4年度の作業によって全体の約2/3のデジタルデータ化を実現し、御経蔵分まで完了した。今後は協力者の助けも得つつ、文献1件（1通・1冊・1巻など）ごとにデータフォルダーを設けて画像データを格納し、解説文と対応させて閲覧できるデータベース構築を目指している。古代学協会が調査できた文献はごく僅かであったが、総本山の寺宝管理と学界の研究に活用して頂けるような形態に生まれ変わらせたいと考えている。

（古藤 真平）

仁和寺真光院の歴史に関する基礎的研究

研究員 西 弥生

歴史学の分野における仁和寺研究では、平安院政期の御室に関心が集中しており、その一方で中世後期以降の仁和寺の諸相や、御室以外の院家の実態についてはあまり手が付けられていないという問題が指摘されてきた。そこで本研究ではこうした研究史上の問題点をふまえ、今

後、諸院家の研究を推し進めていくべく、御室と密接な関係にあった真光院に注目し、「仁和寺御室と真光院—法流・伝受・目録に注目して—」と題して研究成果をまとめた。

まずは考察の前提として、国文学や歴史学の論文の中で真光院および同院院主の足跡に言及

している先行研究を整理した。真光院の存続と発展の実態に関する専論は未だ無いが、関連する先行研究から重要な知見が得られた。

また、真光院の概略を知ることのできる重要史料として、御経蔵139函23号『真光院代々記』（江戸前期成立）を翻刻した。その結果、真光院が菩提院・尊寿院・皆明寺・恵命院・成就院など複数の院家を管領していたという注目すべき情報を本書から抽出することができた。

その上で、第一の論点として真光院院主と仁和寺御流との関係に焦点を当てた。御流が断絶の危機に瀕した時に真光院院主が一時的に法流を預かったことに注目し、未翻刻の文書のいくつかを紹介しながら、真光院と御室との密着した関係の内実を辿り直した。

次いで第二の論点として真光院院主による諸尊法伝受の内実に着目し、真光院院主による『真秘鈔』の伝受の実態について、「伝授記」や「伝授目録」をもとに探った。その結果、御室から

御室への場合とさほど遜色ない形式・内容で、御室から真光院院主への伝授が行われていた一端をとらえることができた。

さらに第三の論点としては、『密要鈔目録』に真光院院主による文書が含まれていることに注目した。守覚法親王により集成された膨大な聖教群である「密要鈔」には、寛永8年(1631)、御室覚深法親王によって真光院院主の手になる文書が新たに複数加納されている。この加納によって、諸院家に対する真光院の優位性が改めて強調されることになったであろうことを指摘した。

以上、本研究では御室と真光院との関係性について、「法流」・「伝受」・「目録」という三つの観点から考察した。検討が不十分な点多々あるが、未だ学界に知られていない文書・聖教の中から院家研究の手がかりがいくつか得られたことから、これをもとにさらなる考察を重ねていくこととしたい。

(西 弥生)

ツォンカパの密教思想の特徴 — 弟子の著作から見る彼のインド後期密教経典理解 —

研究員 松本 峰哲

昨年度に引き続き、インド密教最後期に成立したとされる経典『カーラチャクラ・タントラ』に対するチベット仏教最大宗派ゲルク派開祖ツォンカパの理解を明らかにするため、彼の直弟子であるケドゥプジェによるツォンカパの講義録『カーラチャクラタントラの注釈書ヴィマラプラーの難処についての覚書』の研究を行った。

ケドゥプジェの著作は一般のチベット大蔵経各版に収録されていない所謂蔵外文献のため、まずは基礎研究としてまず現在スキャンデータで入手可能な5版（タシルンポ版、クンブン版、シヨル版、ラブラン版、デルゲ・ゴルチェン版）

を使用し、5版照合の電子テキストの作成が必要であった。昨年度は第1章の5版照合電子テキスト作成までの作業を終え、今年度は残りの章の照合テキストの作成と最終的な校訂テキストの作成、科文の作成と翻訳を目指していたが、底版としたタシルンポ版の画像の状態の悪い箇所が多かったため作業に時間がかかり、最終的に昨年度作成したテキストの残りの第2章から最終章である第6章までのタシルンポ版の電子テキスト化までしか研究を進めることが出来なかった。しかし最終章まで電子テキスト化を進めたことによって、本テキスト全体の章構成や、

正確な解読はまだ行っていないが、ある程度各章の内容が見えてきた。

その中で、本テキストにおける evaṃ（漢訳「如是」）というサンスクリットの語義解釈については、昨年度の研究においても重要性を指摘したが、本年度の研究ではこの語義解釈について、そもそも『カーラチャクラタントラ』にはこ

の evaṃ が使われておらず、それ以上に注釈書『ヴィマラプラバー』はあえて evaṃ を使わない意味を解説しているという重要な問題があることがわかった。ではなぜケドゥップジェの本著作にあえて evaṃ が使われているのかについては、今後の研究課題としたい。

(松本 峰哲)

研究助成事業 令和5年度 採択について

仁和伝法所研究助成事業（若手研究助成／仁和寺研究促進助成）は、優れた調査研究テーマに対し、審査を経て金銭による助成をおこなうものです。真言密教および仁和寺をめぐる学術研究の進展、また仏教文化の興隆に寄与することを目的としています。令和5年度の採択は以下の通りです。

若手研究助成 採択一覧

テーマ名	申請者	助成金額
仁和寺における宇多源氏女系子孫の結束と『源氏物語』の関係に関する研究	神原 勇介 佛教大学文学部日本文学科講師	26.4 万円
小地名を用いた仁和寺領荘園の景観復元—筑前国怡土庄の土地開発を中心に—	楠瀬 慶太 高知工科大学大学院博士後期課程	31.3 万円
『三十帖策子』の研究—目録類の対照を中心として—	佐藤 憲英 大正大学大学院博士後期課程	22.0 万円
中世後期における仁和寺院家と法流相承について	諏訪 亮大 関西大学大学院博士後期課程	31.9 万円
仁和寺旧蔵史料に関する基礎的研究	橘 悠太 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部歴史研究室アソシエイトフェロー	43.6 万円
仁和寺建立期の宇多法皇和歌活動に関する研究	田原 加奈子 玉川大学非常勤講師	29.0 万円

(以上 6 件、申請者の所属は申請当時のもの)

※本年度は「仁和寺研究促進助成」の採択はありません。

講習会活動報告

澄禅流悉曇講習会

講師	児玉 義隆 先生（種智院大学副学長・教授）	
会場	総本山仁和寺 御室会館・地下会議室	
内容	第 5 回 令和 4 年 9 月 2 日（金）	悉曇十八章 2（第八章～第十四章）
	第 6 回 令和 4 年 11 月 4 日（金）	悉曇十八章 3（第十五章～第十八章）
	第 7 回 令和 5 年 1 月 18 日（水）	塔婆の書き方 1
	第 8 回 令和 5 年 4 月 25 日（火）	塔婆の書き方 2
	第 9 回 令和 5 年 6 月 27 日（火）	刷毛書きの書法 1
	第 10 回 令和 5 年 9 月 6 日（水）	刷毛書きの書法 2

本講座は児玉義隆先生の指導のもと、梵字悉曇の書流として代表的な「澄禅流」^{ちようぜんりゅう}について専門的に学ぶ講習会です。令和3年度より5年度まで、全10回にわたり澄禅流の書法を習得します。

第5回・第6回では前回に引き続き、約6500字からなる『悉曇十八章』の書写に取り組みました。受講者は『悉曇十八章建立帖』に清書し、先生の添削を受けました。第7回・第

8回では卒塔婆の書き方を実習しました。板塔婆に記す年回忌本尊の種子・真言のほか、角塔婆や四十九院塔婆についても学びました。第9回では澄禅流の特徴である刷毛書きについて、その書法を詳細に学びました。続く最終回でも刷毛書きの練習に取り組む予定です。

また現在、受講者の希望により、講座終了後の仁和寺道場における悉曇灌頂開壇を検討しています。



密教学講座 一真言密教の軌跡と仁和寺一

講師 堀内 規之（仁和伝法所特任研究員）

会場 総本山仁和寺 御室会館・地下会議室

内容 第4回 令和4年9月8日（木） 真言教学における仁和寺

コロナ禍により令和2年度より数度延期となっていた「密教学講座」の最終回が開催されました。特任研究員を務める堀内規之先生の講義では、仁和寺の教学発展を考える上で院家の

果たした役割が重要であることが指摘されました。また平安時代末期の成就院寛助による仁和寺伝法会の創始と、その教学振興の場としての意義が論じられました。



声明の講座 一理趣三昧法会の声明一

講師 守安 秀行（仁和伝法所准研究員）

会場 総本山仁和寺 御室会館・地下会議室

内容 第1回 令和4年10月18日（火）

第2回 令和4年12月14日（水）

第3回 令和5年3月2日（木）

第4回 令和5年5月17日（水）

声明の解説、唄の実習

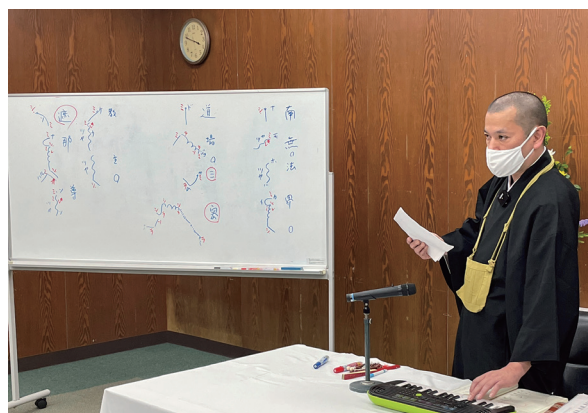
散華・対揚の実習

唱礼・前讃・後讃の実習

理趣経の実習

准研究員守安秀行先生の指導により、南山進流による理趣三昧法会の声明を習得しました。曲目ごとに守安先生による音程や唱法の確認がおこなわれ、正確なお唱えを身につけることが

できました。またそもそも声明とは何かという点についても講義がなされ、理解を深めることができました。



法式の講座 —西院流の荘厳—

講師 奥 龍弘（仁和伝法所准研究員）

会場 総本山仁和寺 御室会館・地下会議室

内容 第1回 令和4年10月19日（水） 法儀概略・道場
第2回 令和4年12月15日（木） 道場荘厳・供養
第3回 令和5年1月26日（木） 修法壇の荘厳
第4回 令和5年3月3日（金） 梵音具・荘厳の実習

西院流による作法や法会儀式について学ぶ「法式の講座」は、平成26年度以来の開講となりました。准研究員奥龍弘先生の指導により、道場と修法壇、供物、仏器、仏具など、法会執

行に不可欠な「荘厳」について基礎から詳しく習得しました。最終回では仁和寺金堂において大壇荘厳の実習をおこないました。



悉曇の講座 —塔婆の書き方—

講師 森 祐敬（仁和伝法所准研究員）

会場 総本山仁和寺 御室会館・地下会議室

内容 第1回 令和4年11月22日（火） 摩多・体文について
第2回 令和5年1月17日（火） 塔婆の書き方
第3回 令和5年3月1日（水） 年回忌本尊の種子と真言

梵字悉曇「智満流」^{ちまんりゅう}楷書体による書法の基礎について、准研究員森祐敬先生の指導により詳しく学びました。字母となる摩多・体文、そして卒塔婆に用いる十三仏など年回忌本尊の種

子・真言の書き方を実習しました。各回森先生による添削がおこなわれ、正しい書体を徹底的に身につけることができました。



講習会の予定

悉曇の講座 —梵字の曼荼羅—

講師	森 祐敬（仁和伝法所准研究員）		
会場	総本山仁和寺 御室会館・地下会議室		
内容	第1回	令和5年10月17日（火）	摩多・体文について
	第2回	令和5年12月6日（水）	光明真言曼荼羅の書き方
	第3回	令和6年1月18日（木）	星曼荼羅の書き方

法式の講座 —西院流の法会儀式—

講師	奥 龍弘（仁和伝法所准研究員）		
会場	総本山仁和寺 御室会館・地下会議室		
内容	第1回	令和5年10月24日（火）	常楽会
	第2回	令和5年12月7日（木）	土砂加持法会
	第3回	令和6年1月17日（水）	仏生会・弘法大師誕生会

密教学講座 —弘法大師への道—

講師	岩崎 日出男 先生（園田学園女子大学教授）、松本 峰哲（仁和伝法所研究員）、 苔米地 誠一（仁和伝法所特任研究員）		
会場	総本山仁和寺 御室会館・地下会議室		
内容	第1回	令和5年10月18日（水）	密教の成立と伝播（松本）
	第2回	令和5年12月15日（金）	中国密教の祖師たち（岩崎）
	第3回	令和6年1月19日（金）	空海の密教（苔米地）
	第4回	令和6年3月1日（金）	弘法大師の道（苔米地）

組織（令和5年度）

所長	鈴木 義晃 SUZUKI Giko 昭和 45 年 (1970) 生 仁和密教学院学院長、御室派・洞雲寺住職
主任研究員	武内 孝善 TAKEUCHI Kozen 昭和 24 年 (1949) 生 博士 (密教学) 高野山大学名誉教授、御室派・円満寺徒弟 ■著書『空海はいかにして空海となったか』(KADOKAWA、2015 年) 『空海伝の研究』(吉川弘文館、2015 年)
研究員	古藤 真平 KOTO Shimpei 昭和 35 年 (1960) 生 文学修士 公益財団法人古代学協会研究員 ■著書『宇多天皇の日記を読む』(臨川書店、2018 年) 論文「宇多天皇とその同母兄弟姉妹」(『文化学年報』65、2016 年)
	西 弥生 NISHI Yayoi 昭和 52 年 (1977) 生 博士 (文学) 種智院大学人文学部准教授 ■著書『中世密教寺院と修法』(勉誠出版、2008 年) 論文「真言密教聖教の史料的特質と活用」(『日本史研究』725、2023 年)
	松本 峰哲 MATSUMOTO Minenori 昭和 46 年 (1971) 生 修士 (文学) 種智院大学人文学部教授・臨床密教センター長、御室派・神護寺副住職 ■著書『構築された仏教思想 ツォンカパ』(佼成出版社、2021 年)
特任研究員	赤塚 祐道 AKATSUKA Yudo 昭和 46 年 (1971) 生 博士 (文学) 国際仏教学大学院大学特任研究員、新義真言宗・徳蔵寺住職 ■論文「五輪九字明秘密釈」の書写系統をめぐる問題」(『印度學佛教學研究』68-2、2020 年) 「大伝法院流聖教の形成と相承」(『密教学研究』53、2021 年)
	苦米地 誠一 TOMABECHI Seiichi 昭和 27 年 (1952) 生 博士 (仏教学) 大正大学名誉教授 ■著書『平安期真言密教の研究』(ノンブル社、2008 年) 論文「古代における真言宗僧の「修学」について」(『密教学研究』48、2016 年)
	中村 夏葉 NAKAMURA Kayo 昭和 55 年 (1980) 生 博士 (文学) 大正大学仏教学部講師、善通寺派・真福寺徒弟 ■論文「現図金剛界の九会構図についての一試論」(『密教学研究』52、2020 年) 「現図胎藏曼荼羅と須弥山世界観」(『密教学』55、2019 年)
	中山 一麿 NAKAYAMA Kazumaro 昭和 44 年 (1969) 生 博士 (文学) 大阪大学大学院文学研究科招へい研究員、真宗大谷派・西福寺住職 ■監修『寺院文献資料学の展開』全 12 巻 (臨川書店、2019 年より) 編著『寺院文献資料学の展開 第 1 巻 覚城院資料の調査と研究 I』(臨川書店、2019 年)

堀内 規之 HORIUCHI Noriyuki

昭和 41 年 (1966) 生
博士 (仏教学)
大正大学仏教学部教授、豊山派・延命密院住職
■著書『済暹教学の研究』(ノンブル社、2009 年)
論文「仁和寺教学圏について」(『日本仏教学会年報』84、2018 年)

准研究員

有瀬 光崇 ARUSE Kosu

昭和 49 年 (1974) 生
御室派・國分寺住職
■論文「真光院俊亮寂如の事跡とその周辺」(中山一磨監修・山崎淳編『寺院文献資料学の最新展開 第九巻 近世仏教資料の諸相 II』臨川書店、2020 年)

上田 隆雄 UEDA Ryuo

昭和 63 年 (1988) 生
御室派・延命寺副住職

大橋 聖本 OHASHI Shohon

昭和 43 年 (1968) 生
御室派・大福寺住職

奥 龍弘 OKU Ryuko

昭和 51 年 (1976) 生
仁和密教学院講師、御室派・観音寺住職

泰地 翔大 TAJI Shota

昭和 60 年 (1985) 生
修士 (歴史学)
■論文「真言宗の門流分化と後七日御修法」(『洛北史学』23、2021 年)
「真言寺院仁和寺の成立」(『古代文化』72-3、2020 年)

沼野 圭翠 NUMANO Keisui

昭和 47 年 (1972) 生
修士 (密教学)
御室派・高照院住職
■論文「鳳潭と妙瑞の圓音解釈について」(『密教文化』238、2017 年)
「宥快の圓音解釈について」(『密教文化』236、2016 年)

前田 隆照 MAEDA Ryusho

昭和 58 年 (1983) 生
修士 (文学)
御室派・金剛院徒弟
■論文「『山家集』「心におもひけることを」歌群の再検討」(『詞林』46、2009 年)
「古典からみる仁和寺」(『京都橘大学文学部歴史文化ゼミナール』5、2018 年)

森 祐敬 MORI Yukei

昭和 55 年 (1980) 生
仁和密教学院講師、御室派・徳成寺住職
■編著『智満流梵字悉曇習字帖』(仁和伝法所、2019 年)

守安 秀行 MORIYASU Shuko

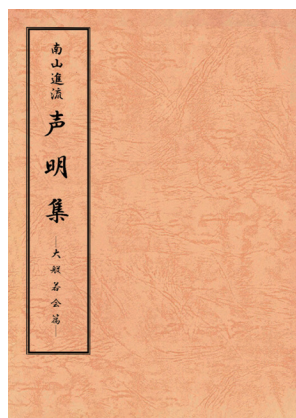
昭和 47 年 (1972) 生
仁和密教学院講師、御室派・西方寺住職

職員

泰地 翔大 (准研究員と兼任)

仁和伝法所刊行物

近刊のごあんない



南山進流声明集 大般若会篇

潮 弘憲 監修
仁和伝法所声明研究会 編

令和6年出来予定
価格未定

仁和伝法所声明研究会は、「南山進流声明一流伝授」（仁和寺道場、伝授阿闍梨潮弘憲 僧正）にて授かった声明を守り伝えることを目指して活動しています。新たな教則本『南山進流声明集』シリーズの制作をおこない、令和元年には第1作となる『理趣三昧篇』を刊行しています。

このたび第2作『大般若会篇』を刊行することとなりました。本書は大般若会声明の全曲目を収載しており、音の動きを分かりやすく示す「実唱博士」を本博士（墨譜）・仮博士（仮譜）に併記するほか、実唱に関する口訣や曲節の違いについても注釈を付しています。声明の基礎たる学びのため、また日頃の研鑽のため、きっと本書をお役立ていただけるはずです。ぜひお求めください。

1	広沢西院流御室相承 西院流八結(上下2冊)	仁和伝法所 編	50,000円
2	広沢西院流御室相承 十八道念誦の次第 解説	仁和伝法所 編	3,000円(本派2,000円)
3	広沢西院流御室相承 金剛界次第 解説	仁和伝法所 編	6,000円(本派5,000円)
4	広沢西院流御室相承 護摩頸次第 解説	仁和伝法所 編	6,000円(本派5,000円)
5	広沢西院流御室相承 胎蔵界次第 解説	仁和伝法所 編	6,000円(本派5,000円)
6	南山進流声明集 一理趣三昧篇一	潮弘憲 監修 仁和伝法所声明研究会 編	5,000円
7	智満流梵字悉曇習字帖	森祐敬 編著	2,500円

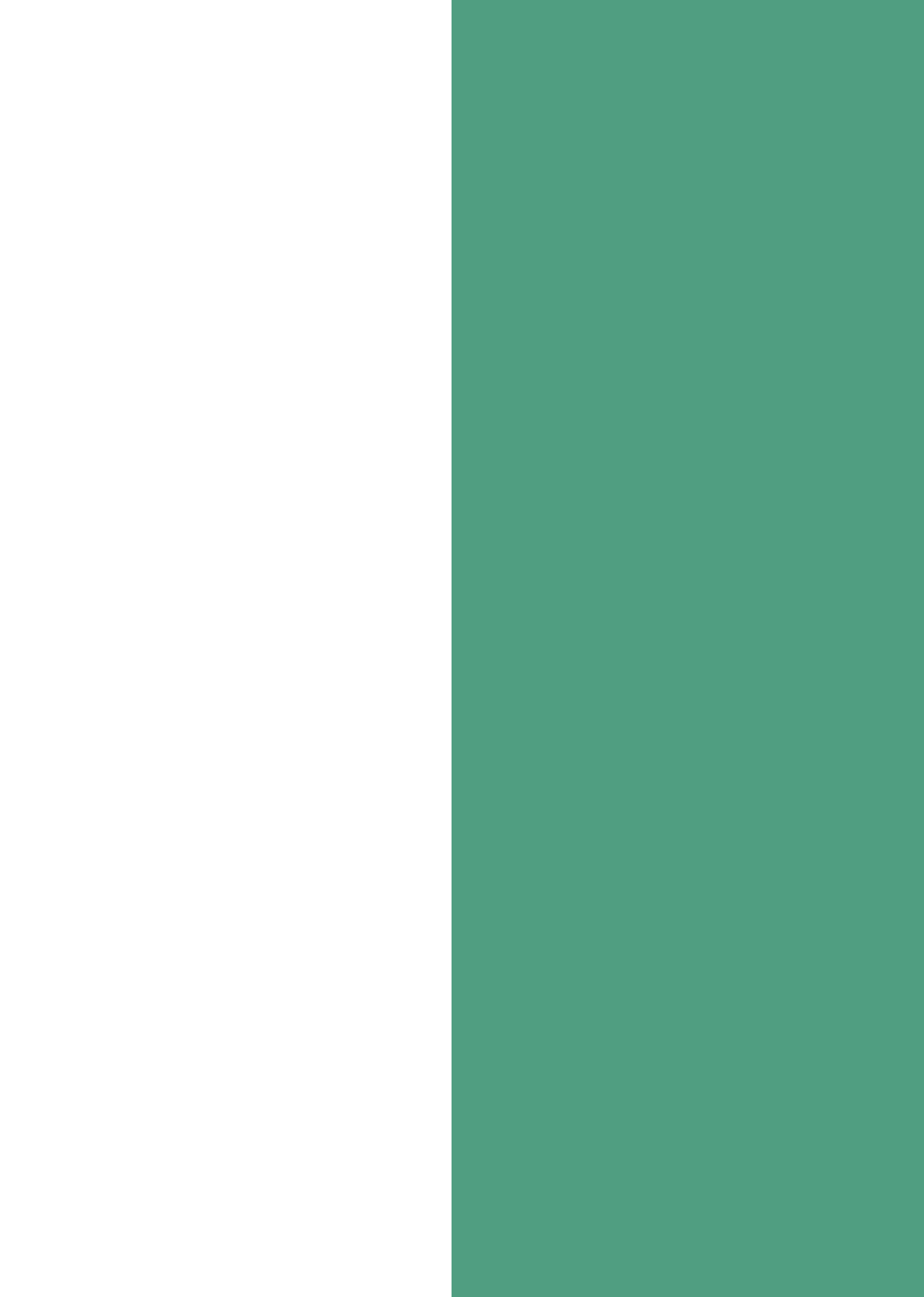
1～6は僧籍をお持ちの方にのみ頒布いたします。刊行物をお求めの方は仁和伝法所までご連絡下さい。

仁和伝法所所報 第3号

令和5年8月31日発行 (非売品)

編集・発行 総本山仁和寺 仁和伝法所
〒616-8092 京都府京都市右京区御室大内33
E-mail denposho@ninnaji.jp
URL <https://www.denposho.com/>
Twitter @ninna_denposho

印刷：ひしき印刷紙工有限公司





仁和伝法所所報

Bulletin of Esoteric Buddhism Research Centre, Ninnaji Temple